

母の慈愛と善意の糸車

奥東 賀谷 倭登

いかに月にロケットが飛び、物質文明が発達しても人間世界の真理は不変であります。なにかんづく親の愛情は神仏の慈愛と同じものであると信じます。

私は男三人、女四人の七人兄弟の三男に生まれ、大正の末期で富国強兵の国策にそい、大陸進出の野望を抱いた時代の児童として、明けても暮れても戦時体勢での教育を受けたものです。ですから物心両面にわたり、束縛、抑制を強いられた生活をして参りましたが、その暗い時代を生きぬいた人間にも、その時代なりに相互扶助、一致協力しての恩愛のうるわしい世界もあったように思います。ここに記す一つの事柄は私の体験談であります。

昭和十九年の十二月十九日に大学を中途にて、学徒出陣として歓呼の聲に送られて出征し、雪の降る寒い日に山口第四部隊に入隊しました。入隊後戦地に行くのが早いということと、母は毎日のように慰問に来てくれました。当時の交通事情から言って仲々容易なことではなかったと思います。幼い末妹に外套の下に折詰弁当を背負わせて、物質不足の非

常時のさ中、寿し、おはぎ餅等好物を持参してくれておりましたが、十日程経過した二十九日の未明、山口を出発して外地に向いました。当日も常の如く母は私の為に、肩に負えるだけ詰め込んだリュックサックを背に広眼を発ちました。今日、広一山口間といえは目と鼻の先の距離のようですが、当時の込んだ汽車に揺られ、山口にたどり着くことは大変なことであつたことと思います。

ところが、母がやっと山口に到着して見れば、自分の息子の部隊はその日の未明、外地に向けて九州方面に下つたと聞かされ、泣くにも泣けず、どうしようかと思案したけれど、このまま帰っては何の意味もないと、母の子供を思う一念で、直ぐさま山口駅にひき返えし、駅の人に「私は遙々広島県の広から息子に会う為に山口連隊までやって来ましたが、悲しいことに今朝未明、息子の部隊は九州方面に移動したそうで、今ここで別れたらもう何時此の世で会えるか知れません。どうか切符一枚頂けないでしょうか」と頼みましたところ、切符一枚買うのにも長蛇の列を作らねばならなかった当時のことですから、駅員にはどうすることも出来ません。その時切符を求め列の前の方に居た人が、「私はこれから郷里に帰るため切符を求めた者ですが、どうぞ私の切符で貴女の息子さんに会いにお行き

幕末の文豪頼山陽先生の母を路上に送る詩の一節に、「五十の児七十の母有り、此の福人間得ること応に難かるべし。南去北来人織るが如し。誰人か我が児母の歎に如かん」將にその通りでございました。今後は母のやさしい愛情と人様より受けた善意とに應えるべく、人生を有意義に奉仕に徹して生きぬきたいと決意している次第であります。

(広島県・セメント販売)

夜の点呼が終つた時、私に班長より小声で賀谷二等兵面会人だといわれ、この九州の端に知人はいはずだが、と首をかしげて部屋に帰って見れば、我が母が笑みをたたえて来ているではありませんか。全く夢のような気がしましたが現実であり、子供に会いたさの母親の願力の偉大さに感服したものです。母はその夜一睡もせず、携帯品、慰問袋等を真心こめて全部整備し、母の手で肌着には縫い取りで名前を入れてくれましたが、今もその肌着の暖かかったことを忘れません。

郷里日本の味をどっさりと持って十二月三十日未明、博多港で母と離れて支那大陸に渡り、終戦後再び元気で祖国の地をふんで肉親と再会出来た時、夢のように去った過去の親の慈愛と人の善意に支えられて、今日があつたことに感涙するばかりでありました。その母も昨秋七十四歳にて大往生致しました。

なさい」と云って、やっと手に入れたその切符を母に与えてくれたのだそうです。母はその時「ああ有難い、神仏並びに今は無き両親様が守って下さったのだ」と人の善意の尊さに感涙し、心の中で合掌したと申しております。後年になつてもその時の感激を思い出し、切符を譲って下さった、何処の誰とも知らぬ人に深く感謝し、どうぞあの方が幸でありますようにと祈っておりました。

こうしてやっと汽車には乗ったものですが、現時は秘密主義で通っていた軍の取決めで、九州の何処に向つたか尋ねても全然正確なことは知らせてもらえず、ただ漠然と九州方面とのみ知らされたばかりですから、さっぱり見当がつかず、困って居りますうちに汽車は下関に着きました。この時もやはり神様の御加護があつたと申しましょうか、母は下関で下車しようか、博多まで行こうかと迷つたのですが、母はふと博多で下車して見ようという気持になり、夕闇迫る博多駅のホームに降り立ったのだそうです。

博多駅の窓口に参りまして、「この駅に山口の連隊から来られた一団は有りませんか」と尋ねますと、「ああありましたよ」と言う返事。母はもう心も踊る思いで、息子はこの街にいるに相違ない、この街を徹底的に捜して見ようと思ひ、駅を出ました。少し行きますと、